

強害雑草ワルナスビ

我が家の引っ越しツバメは無事に巣立ちました。めでたいお知らせの次に、あまり芳しくない話題を少々……。

ウェットランドの駐車場付近で、ワルナスビという外来草が増えてきました。ジャガイモに似た可愛らしい花を咲かせますが、茎だけでなく、葉の裏にまで、全身するどい棘だらけ。おまけに、果実



にはソラニンという有毒物質を含み、熟果をつぶすと悪臭が発生するという凶悪ぶりです。全国各地の牧草地や飼料畑に侵入し、大きな被害をもたらしています。

強害雑草と呼ばれるゆえんは、それだけではありません。繁殖力がすさまじいのです。ワルナスビは種子繁殖にくわえ、縦横にのびる長い地下茎からも株を増やしていきます。この地下茎がしぶとくて、耕運機で切りきざんでも、こま切れの地下茎がほとんど生き残り、きざんだ分だけ株が増えてしまうというのです。プラウ耕で土を深くえぐって反転させても、少なくとも 50 センチの深さからは地上に芽が出てくるといいます。

こうなると除草剤の出番ですが、根まで枯らすと宣伝している製品を使っても、枯れるのは地上部だけ。すぐに地下茎から再生するそうです。ただし、除草剤の種類によっては、2～3年続けて使えば株数が少しずつ減ったという研究報告もあります。

そんな困りものなので警戒していたのですが、ついにウェットランドの芝生広場の縁にも侵入したので、その飛び地だけは用心して抜き取りました。作業用の革手袋をつけていても、無造作につかむと棘が突き通ってしまいます。使い込んで固くなった指先の部分だけで茎の根元をつまみ、地下茎がなるべく長く付いてくるように、ゆっくりと引き抜きました。おそらく地下茎の大半が残っていて、再生してくるのですが、くり返し抜いてやれば絶やすことができると思います。